

令和8年 網走市議会
文教民生委員会 会議録
令和8年2月12日(木曜日)

○日時 令和8年2月12日 午前10時47分開会

○場所 議場

○議件

1. 行政視察について

○出席委員(7名)

委員 長	古 田 純 也
委 員	金 兵 智 則
	里 見 哲 也
	永 本 浩 子
	平 賀 貴 幸
	古 都 宣 裕

○欠席委員(1名)

副 委 員 長	栗 田 政 男
---------	---------

○議 長 松 浦 敏 司

○傍聴議員(7名)

石 垣 直 樹
井 戸 達 也
小 田 部 照
立 崎 聡 一
深 津 晴 江
村 椿 敏 章
山 田 庫 司 郎

○事務局職員

次 長	本 橋 洋 樹
総務議事係長	和 田 亮
総務議事係	平 間 公 稀
係	山 口 諒

午前10時47分開会

○古田純也委員長 これより文教民生委員会を開催いたします。

本日の委員会ですが、栗田委員より欠席の届出がありましたので御報告いたします。

本日の委員会ですが、行政視察について協議いたします。1月15日に開催しました委員会において、令和8年度の行政視察は5月に視察予定ということで、委員の皆様によくの視察候補地を出していただ

き、大変お忙しい中、ありがとうございました。視察候補地一覧のとおりになっておりますので、まずは御確認いただきたいと思っております。

ではここで、簡単で構いませんけれども、各委員より、出された候補地についての御説明などいただきたいと思っておりますが、まず、私のほうからです。姉妹都市である糸満市で、昨年、戦後80周年を迎える年になりまして、戦争の体験者というのがだんだん減ってきているというところから語り部事業、戦争のむごさや命の尊さなどを学ぶべき、やっぱり継承していかなければいけないということで戦没者遺族から文部科学省に語り部の育成をしたらどうだという話がありました。そこで、網走でも空襲を受けているという経験もありまして、そういう面では語り部を育成する事業に対しては学ぶべきことがあるのではないのかなと思ひまして、この候補地を選ばせていただきました。

それから、あやばに学級というのは、不登校の児童生徒に対して、自立心を高める社会性を身につけるための指導教育を行っているということで注目したいなということで候補地として挙げさせていただきました。

それでは、順番に古都委員のほうからお願いします。

○古都宣裕委員 資料の最初、僕が挙げた中では鹿兒島県志布志市の使用済紙おむつ再生資源化事業ということで、これは民間企業のユニ・チャームさんが志布志市に再生工場を造ってやっているのですけれども、環境負荷を考えたときに、どういった経緯で企業誘致もしくは企業からなのかというところで、埋立てでも大変、環境負荷が高いものですから、どうした処理をしていくかというところで参考になればと思って挙げさせていただきました。

次に資料が抜けていたのですが、日置市の生ごみ回収事業について挙げさせていただきました。網走は今これから生ごみをどうするかというところがあるのですが、やはり炉や環境の地球温暖化の抑制のためにしっかりとした取組をしているところなので、ここもしっかりと見て、行く価値はあるのではないかなと思ひました。

次に新潟県の十日町市の使用済み紙おむつの燃料

化事業。これはたしかペレット化していて、ペレット化する機械というのは様々出始めておまして、これも高熱処理を行うところに委託するのではなくて、今後、焼却処理をするのであれば、こうした形でしっかりとペレットなどの形にした燃料として使うことがあれば、炉の負担を軽くできるのではないかなと、費用対効果も含めて見る価値はあるのではないかなと思いました。

次に、AIを活用した相談システムの構築ということで、昨今、子供たちの相談体制について、AIだと相手が人間ではないから何か漏れるという心配だとか、機械的ではあるけれども、褒めたり、大丈夫というような安心した言葉をかけ続けてくれるというのがあるので、それをどういった形でやっているのかなというのを見る価値があるのではないかなと思ひ挙げさせていただきました。

次に兵庫県小野市、川島隆太脳科学理論に基づく「夢と希望の教育」の推進ということで、川島隆太、脳科学者の先生ですけれども、以前にはやったDSの脳トレというソフトがあって、それを僕も過去にプレイしたことがあるのですけれども、それを学校教育にどう生かしているのかなと、おもしろそうだなと思ひまして楽しみながら学べる形であるのではないかなと思ひ見てみたいと思ひ挙げさせていただきました。

最後に資料ないのですけれども、沖縄県の宮古島市で沖縄が多く挙がっていたので、もしそっちになりそうだったら見てみたいと思ひたのが未利用給食の活用について。これ民間でやっているところがちょっとずつ出始めているところぐらいで、まだ公的にやっているところはほとんどなくて、この宮古島市の学級閉鎖などが行われた時にちょっとだけやっているような形で新聞に少しだけ載っていたところがあったので、これが子ども食堂だったり高齢者福祉施設へという形での提供につながって、SDGsに取り組むのであれば、網走市でも調理済み、未利用の給食がたくさんあるというふうに思いますので、その活用についてしっかり考えていくべきではないかなと思ひ挙げさせていただきました。

以上です。

○古田純也委員長 ありがとうございます。

○里見哲也委員 地理的な移動の関係で必ずとは言わないですけれども、東京に寄るよなという感覚があって、ぜひ不登校の特例分教室は学びたいなと。さっき不登校の話もありましたけれども、そんな中

で、どこをメインというか、一番遠いところを充てても、恐らく東京は、羽田空港に寄るのだろうということで、町の規模は違いますけれども、不登校の対応について見てみたいなというので二つ選んでいます。あとは、高齢者参加型とか地域のつながりっていろんな形で、いろんな場面を見に行っていますけれども、今回も高齢者とか地域共生というところの中で1か所、高松で四国というところを見てしまいましたけれども、基本的には、東京とか神奈川とか、どこに行っても寄れるのではないかなというところの要素も含めて、4つ挙げさせていただきました。

○金兵智則委員 私からも4つ挙げさせていただきました。まず高知市の地域おこし学校というのは、閉校した小学校を拠点として市民協働の活動を行うということで、網走市も今後、小・中学校が全て残るというのではなくて、方向性的には集約していくという流れの中で、その空き学校の利活用といった面でどうかなと思ひ挙げさせていただきました。

次のごみ焼却施設の建設事業ですけれども、ここそんなに新しいわけではなかったのですけれども、ごみの燃焼で発生するエネルギーの発電だったり余熱利用をされているということと、建設業者の選定には、新しい技術やノウハウなどの価格以外の要素を含めて総合的に評価する総合評価落札方式というのを採用したというのがあるので、今後、網走も中間処理施設ができる中でそういったことを学んでくるのもいいのかなと思ひ挙げさせていただきました。

あと、子育て支援手続Web申請化というのはこれからの時代、デジタル・AIというのは当たり前のように使われていくので、こういうことは、先んじて学んでおくのはどうかなと思ひ挙げさせていただきました。

最後の児童館の整備ですけれども、網走市も児童館が古くなってきています。来年度予算にも児童館のトイレをやっと整備するというのもありましたけれども、そんな中で、児童館が小学生だけではなくて中・高生の利用も含め全ての世代が使えるようなというものみたいなので、そういったものも未来の網走にという視点で4つ選ばせていただきました。

以上です。

○平賀貴幸委員 私からは永平寺町のふるさと納税福祉事業者支援補助金について挙げさせていただきました。ふるさと納税ですので本来の所管は違うん

ですけれども、福祉事業に対するふるさと納税というところで、これから必要になるのかなど。特に網走市も特別会計の予算を見ると介護保険事業の予算が大きく伸びていたり、やっぱりここにどうしてもお金かかってくるのだなというふうに思っておりますので、必要なと思いました。特別養護老人ホームとか介護老人福祉施設に入れていたり、あるいはNPO法人で行っている医療的ケアが必要な重症心身障害児の福祉サービスの事業所に支援していたり、一般社団法人や株式会社、社会福祉法人、社会福祉協議会など様々な部門に対する支援を直接ふるさと納税の形で行えるというところで全国でも先進的な取組だと思っておりますので視察できればというふうに思った次第です。

以上です。

○永本浩子委員 私のほうからは4つ挙げさせていただきました。

最初の長野県伊那市の生きる力のある子ども育む、がるがるっ子の取組ということで、今、子供の環境というのは、スマホとかパソコンとか、1人1台端末ということで、小さい頃からそういった部分では、かなりそういう部分には長けているのでしょうけれども、この人間対人間の直接の触れ合いというのがあまりないというのが、これから生きる子供たちにとって大事な観点なのではないかなという思いがありまして、この伊那市としては、保育園のそれぞれの親しみのあるシンボルツリーということで樹を中心にして、四季を感じる体験ということで、校外での友達同士の遊びを通して体験を重ねることで生きる力を育てているということで、網走でも何か生かしていけるのではないかなということで一つ挙げさせていただきました。

次の新潟県長岡市の米百俵の、先ほど総務経済のほうでも出ていましたけれども、長岡市の一つの大きな精神的な柱になっているのだと思うのですが、私が挙げさせていただいたのは、この精神に基づく長岡式双方向型教育情報プラットフォーム構築ということで、この児童生徒と市内の民間企業とか、高等教育機関等が双方向にいろいろな交流をしながら知識や関心、郷土愛を深めるということで、網走にとって、いろいろな試みはありましたけれども、こういう民間企業とかそういった部分とも関連をして子供たちを育てていくという角度も新しい取組かなと思ひまして挙げさせていただきました。

それから、茨城県つくば市の部活動の地域移行モ

デル事業。これも網走としては、非常に遅れているということで、先ほど予算もついてはありましたけれども、具体的にどう進めていったらいいかという部分で、つくば市が様々、取り組んでいる内容、そういった部分もいってしっかりと学ばせていただくことによって、網走市の部活動の地域移行も進んでいくのではないかなと思って挙げさせていただきました。

4つ目の群馬県桐生市の子どもがつくるまち「ミニきりゅう」。この取組なんですけれども、これはもう小学生のみ、保護者もつかないという、小学生だけで、仮想の町、旧信濃で桐生ということで、ミニきりゅう市を運営するという遊び要素も含めながら社会の仕組みを学ぶというような取組なんですけれども、ここに関わってくるのが、大学生とか高校生がボランティアスタッフとして関わりながら、小学生のみで、参加対象はやっていくという。こういった取組、網走も東京農大もありますし、桂陽高校もこれと似たような取組もされてきているところでもありますので、こういったものも網走の中でももう少し大きな単位でやっていると、網走に対する愛着心とか子供たちが社会に出てからの生きる力っていうものにもつながってくるのかなと思ひまして挙げさせていただきました。

○古田純也委員長 委員の皆さんありがとうございます。まとめた候補地の中で例年どおり3か所ぐらいの行程を決めたいと考えております。予算等の兼ね合いもありますので、詳細の行程につきましては、正副一任で調整していきたいというふうに思っておりますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

そのように決定いたしました。詳細な行程が決まりましたら、また皆様にお示ししたいと思います。

以上で文教民生委員会を終了いたします。

午前11時04分閉会